

福島薬剤師会・病院薬剤師会福島支部 11月合同研修会レポート

日時：平成28年11月16日(水) 19時～20時40分

場所：ホテルサンルートプラザ福島「芙蓉」

《情報提供》

「多発性骨髄腫治療薬 エンプリシティ」

ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社

今年9月28日に承認され、11月18日に発売される多発性骨髄腫においては初めての抗体薬のエンプリシティ(エロツズマブ)。直接的なNK細胞の活性化と骨髄腫細胞の標的認識という2つの作用機序から抗骨髄腫効果を発揮。効能・効果は再発または難治性の多発性骨髄腫で、単独投与ではなくレナリドミド及びデキサメタゾンとの併用において点滴静注する。また **Infusion reaction** 軽減のために、抗ヒスタミン薬やH2受容体拮抗薬や解熱鎮痛薬の前投薬を行う。

《特別講演》

『多発性骨髄腫 ―診断と最近の治療―』

北福島医療センター 血液内科 木村秀夫先生

血液の三大腫瘍

- 急性白血病(骨髄性、リンパ性)…上昇はなく発生率は横ばい
- 悪性リンパ腫…不思議なことに年々増加
- 多発性骨髄腫…高齢者に多い(70歳代後半にピーク、40歳代でも稀)。高齢化に相応して今後も増加すると思われる。以前まではなかなか難しかったが、ここ数年の新規薬剤の登場により治療成績がより改善され、治療可能ながんに格上げするのが適切であると思われる。

多発性骨髄腫(Multiple Myeloma)とは…

リンパ球系の最終分化段階にある形質細胞(免疫グロブリンを作り、外的から身体を守る=抗体)が腫瘍化したもの。そうすると、骨髄腫細胞となり、「M 蛋白」という不必要な蛋白を作り、様々な臓器に悪影響を及ぼす。赤血球や白血球、血小板減少による動悸や息切れ、発熱や感染症などになりやすくなり、骨破壊により骨からカルシウムが溶け出し高カルシウム血症になり、日常生活でも骨折しやすくなる。また腎臓に貯まるため、腎不全を起こし、むくみなどの症状が現れる。

[種類] 産生免疫グロブリンの種類から

大多数が IgG,IgA で IgD,IgE はごくわずか。

BJP 型、非分泌型(まれ)、非産生型もある

軽鎖のタイプから

$\kappa$  型、 $\lambda$  型 (正常は  $\kappa : \lambda = 50:50$ )

病変の広がりから

全身性の多発性骨髄腫、形質細胞腫(骨孤発性、髄外性、多発性)、  
血液にくる形質細胞白血病がある

骨髄腫だとはっきりしている症候性(MM)とその前の段階(SMM)、前の前の段階(MGUS)の 3 段階に分かれていて、治療対象となるのは症候性骨髄腫である。

[診断基準] 血清 and/or 尿中に M 蛋白があり、骨髄中に形質細胞の増加があ  
って、更に臓器障害(C : 高 Ca 血症、R : 腎不全、A : 貧血、B :  
骨病変のいずれか 1 つ以上)を伴ったもの。

※前段階であるくすぶり型(無症候性、SMM)では CRAB が正常。  
いずれは症候群性となるが、症候性となるまで待つか、直ちに  
治療を開始するべきか意見が分かれるが原則としては経過観察。  
症候性とくすぶり型を区別することが大事。  
他に MGUS という他に何も異常がない(CRAB も正常)けど M  
蛋白があるものがある。

骨髄の検査は腸骨から痛みが少ない。初発症状は腰痛や背部痛などの痛みが  
あることが多く、整形に通院することがほとんど。

『高齢者で腰痛を見たら、骨髄腫を疑え!!』

- 整形外科で骨粗鬆症と言われて、それがまさに病変ってこともある。整形外科で適切な治療を受けているにもかかわらず良くならない、むしろ悪くなる場合は要注意。

骨病変検査方法(レントゲン、MRI、CTなど)を駆使することで診断が変わる。染色体異常遺伝子や血清LDHを加味した病期分類に将来は変わっていく。

[治療] CP療法、MP療法、多剤併用療法、IFN療法、デキサメタゾン(新薬の作用を助ける)、BP製剤(弱くなった骨を強化する)、造血幹細胞移植、新薬の組み合わせなど

- 高用量のデキサメタゾンによる副作用(高血糖、感染症、骨粗鬆症など)には十分留意する。高齢者でははじめから半減して使う。

以前はプラトー(血清、尿のM蛋白が減り止まったか消失した状態が3ヶ月、骨髄腫の症状がほとんどないか全くない、輸血が不要)が目標であったが、現在は完全寛解；CR(血清、尿のM蛋白が消失、形質細胞腫の消失、骨髄中の形質細胞腫が5%以下)が目標。理由は治療効果がいいと予後もいいから。

昔は再発すると終わりだったが、新薬が出るたびに可能性がでてきた。

治療法の選択肢が増えた現在も患者さん(性別、見た目年齢、ADL、病識など)に応じて上手に決めていく必要がある。最小限の薬で最大限の効果を!!

文責 佐藤友美